

松川村はどのように多目的交流センター「すずの音ホール」を建てたのか

2013.2.21 池田町町政研究会

1. はじめに

池田町は国の「社会資本整備総合交付金」をあてこんで、アップルランド跡地に多目的交流センターを建設する計画をすすめています。

「ニュースレター Vol.2」や議会での町の答弁でも明らかなように、この施設は公民館、図書館、400人収容のホール、フリースペース、ミニギャラリーなどを備えた多目的型交流施設として構想され、松川村の「すずの音ホール」を意識したものとなっています。

この施設の建設予定費は6億7千万円、これにあわせて道路整備、イベントスペース・駐車場整備などが関連して計画されています。

それでは、町の資料でも類似施設としてあげられている「すずの音ホール」はどのようにして建設されたのでしょうか。その過程を知ることや問題点・教訓を学ぶことは私たちにとっても大変重要です。なぜなら、池田町で

同様の施設を建設しようとしているだけに、形だけまねてつくってもその施設は決して町民のものとならないだろうからです。

しかも、池田町では松川村にはない他の類似施設がたくさんあるのです。それらとの関連も明確にせずに、国の交付金がもらえるからと急いで建設を強行しても、その他の施設はまさに「死んだハコモノ」となっています。

「すずの音ホール」が明るく使い勝手もすぐれているのは、それだけの理由があるのです。つまり、建設を企画する段階から池田町とは全く異なるアプローチ、村の独自の作業、行政と村民との共同の作業が継続的に続けられた結果なのだとすることを明らかにするのが本稿の目的です。

あわせて、その過程での教訓を余さずくみ取することをめざします。

2. 松川村「すずの音ホール」建設までの経過

発端は平成13年。松川村に公園・文化施設をつくるのが政策課題となり、2月に「多目的文化施設準備委員会」が設置されます。準備委員会はこの年8回の審議を重ね、同年12月に「複合施設」(公民館機能、ホール、図書館など)として建設することが望ましいと答申を村に出します。

これに基づいて、翌平成14年5月に「多目的文化施設等検討委員会」が設置され、平成19年11月まで計20回の委員会を重ねて検討を深めます。

平成13年以前から村は現在の「りんりんパー

ク」の区画を公園にするという計画をたて、国の都市公園事業交付金を見込んで施設建設も併せて行おうとしていました。平成14年度末に、村は「都市公園事業」として補助金をもらい、事業認可を受けて公園の整備から着手しようとしています。

しかし、村民の中からは、果たして公園が必要なかどうかという疑問が出されたり、一方的に施設などを建設することへの批判が高まりました。また施設建設については「都市公園事業」としては制約があり実行不可能だったこともあって、その事業は土地買収を行っただけで

終わり、その後約2年間が経過します。

そこで、住民の意見を十分に反映した施設建設、周辺地域整備事業とするため、村は平成16年10月に基本計画の策定を龍環境計画に210万円で委託。同12月には委員会のもとに「多目的文化施設づくりワークショップ」をおき、総合的な検討を開始します。

平成16年12月から平成17年9月まで計7回にわたってワークショップが開催され、精力的な検討を経て基本計画の策定業務が集結します。ここまでが第1ステージです。

ワークショップには龍環境計画も参加、初回には町民120人が参加しています。ワークショップでは、「公民館部門」「図書館部門」「ホール部門」「周辺ガーデン部門」の4分科会が設けられパートごとの会合が行われるとともに、必要に応じて全体の会合をもって調整をはかりました。

村民の中には、大きな公共施設は必要ないという意見もあったと言われていますが、松川村の場合は池田町のようにいくつも類似の施設があったわけではなく、文化施設の必要性を感じていた村民も多かったことから、ワー

クショップの討論を通してどのような施設にすべきかが前向きに議論され、そうした意見は克服されていったようです。

平成17年12月から平成19年2月まで引き続きワークショップを行い、施設をどのように村民が使いやすい親しみやすいものにするかをテーマとして、具体的な建設計画策定を行っていきます。これが第2ステージ。

平成18年3月には、国で新設された交付金を利用する「まちづくり交付金都市再生整備計画事業」を採択、概要設計計画策定業務を完了します。

平成18年6月から7月にかけて、多目的交流施設に関する住民説明会を全7会場、計8回開催。8月には龍環境計画に「多目的交流センター詳細設計業務委託契約」を交わし、平成19年3月に設計業務完了。同年10月からセンターの建設にとりかかります。

平成20年9月にセンターの愛称を「すずの音ホール」と決定。平成21年2月に竣工。5月オープン。平成13年2月からあしかけ9年の歳月をかけて多目的交流センターと周辺の公園の整備を成し遂げたのです。

主な経過 (まとめ)

H13	2	多目的文化施設準備委員会設置 (計8回)
	12	準備委員会「複合施設が望ましい」との答申
H14	5	多目的文化施設等検討委員会設置 (計20回)
H16.12 ~ 17.9		多目的文化施設づくりワークショップ (7回)
H17.12 ~ 18.2		第2ステージワークショップ (6回)
H18	3	まちづくり交付金都市再生整備計画事業採択
H18	6~7	住民説明会 (7会場8回)
H19	3	多目的交流センター詳細設計業務完了 ワークショップ第3ステージ (公民館)
H19	10	建設工事着工
H21	2	竣工
H21	5	「すずの音ホール」オープン